

【令和3年も残すところ8日間！！】

令和3年も残りわずかとなりました。また、2学期も今日を含めて後2日、今年は自分が成長できた年だったでしょうか？2学期での自分はどこが成長したでしょうか？その日、その日をただ過ごすには中学校生活はもったいなすぎます。人生の中で心も体も最も成長する中学校をただ過ごすだけでは人生の伸びしろに大きな差が出てきます。

今年1年でこんなところが成長できた。この学期でこんなことが分かるようになった。こんな考え方ができるようになった等成長をその都度実感したいものです。

さて、図書館の本の貸し出しも終わり、朝の読書でも活用して欲しいと思いいくつかお話しています。活用出来る方は活用してみてください。

記念樹

私が小学校4年生の時の話である。私たちの担任の先生は産休をとり、補充の先生が4年3組にやってきた。その先生は特別支援学校から赴任してきた。彼女は明るくスポーツが得意で、みんな先生のことが大好きだった。

そんなある日の事である。2人の男の子達がケンカをしていた。そのケンカの原因も覚えてはいないが教室全体がその男の子達のケンカを見ていた。その時、1人の子が「シネ！ヨーゴ！」と言った。その言葉を聞いた先生は「やめなさい！」と普段の先生からは想像できない大きな声で怒鳴った。教室は一瞬のうちに静かになった。先生は急に涙を流しながら「あんた達はあの子たちの将来の夢何かわかる？」とたずねた。私たちは誰も声を発さなかった。「あの子たち、夢は歩きたいって言うんだよ。」

だから、シネとかヨーゴとか絶対に言わないで」と言った。教室は静かになり、私はなぜか泣いてしまった。ケンカをしていた男の子達も静かになりうつむいていた。この一件から私たちのクラスからは「シネ、ヨーゴ」という言葉は消えた。先生のあの時の言葉は私たちの心に何か突き刺さるものがあった。

しかし、そんな先生の補充の期間が終わりに近づき、私たちのクラスは何か先生にサブライズをしようという話になった。ちょうどその時、音楽の授業で「記念樹」という合唱曲を習っていたので、みんなで「記念樹」を歌おうという話になり、また誰かの提案で「記念樹」を替え歌にしようという結果になった。私たちは音楽の先生に頼んで、音楽の時間に「記念樹」の歌詞を考え練習をした。計画では、帰りの会が始まり、日直が帰りの号令を言い始めた途端「記念樹」の曲が流れ出すという計画であった。私たちは誰が音楽のスイッチを押すかという話になったが、ある一人の子が手を挙げた。その子は、あのケンカをした男の子である。「俺がやりたい」と一言だけ言い、私たちは彼に任すことにした。そして、とうとうお別れの日がやってきた。帰りの会はいつも通り進み、日直が「帰りのあいさつをしましょう。起立」と言った途端、あの男の子が音楽のスイッチを押した。そして全員で手作りの「記念樹」を歌った。先生はただただ涙を流し、「ありがどう。ありがどう」と言っていた。そして先生は、4年3組を去っていった。

私は今21歳で、これは10年前の話であるが、私の記憶の中に鮮明に焼き付いている。先生からたくさんのお話を学び、そして成長していった。私もいつか教壇に立ったとき、この先生のように子ども達と感動の一瞬一瞬を分かち合いたい。

図書館の本の貸し出しも終わり、朝の読書でも活用して欲しいと思いいくつかお話しを紹介いたします。今回は私が最近考えていることを紹介してみます。

人間、誰だっておもしろくないことはあります。特に中学生というのは、制服を着なければならぬし、校則を守らなければなりません。遊びたくても、親や先生からは「勉強しろ」とか「ああしてはだめだ」「こうしてはいかん」とか、自分の気持ちに反することばかりでおもしろくありません。

現に今年も「なぜ制服を校則通りに着ないといけないのか？」という質問を受けた事もあります。私は、「中学校時代というのは人生のゴールではなく、将来に向けての通過点であると考えている。そのまず一番目の通過点が高校受験になると思う。例えばその高校受験の面接の時に、自由気ままな服装の方が合格に近づくのか？日頃は違う服装をしていて受験の時だけそれらしい服装ができるのか？」と考えてみました。

皆さんはどうでしょうか？世の中にはたくさんのルールや決まりがあります。そのルールや決まりに納得ができずに、みんなはモヤモヤした気持ちのひとつやふたつぐらい持っているひともいるかもしれませんね。自分は自分の好きなように生きたいのに、規則や制限が多すぎる。いっそ逃げてしまいたいけど、それもできない。だから仕方なく、いやいやながら生活している。親のスネをかじっているうちはいいのです。いずれはみんな職をもたなければならないし、そのためには勉強をしなければいけません。だから、仕方なく高校へ進み、いやいやながらも勉強する。そういう人もきっといることでしょう。

しかし、好きでもないことを仕方なく続けて生きていくって、幸せなことでしょうか。「将来いい職業に就くために、きらいな勉強も仕方なくやる」って人がいるけど、それは本当に正しいことなのでしょうか。この世の中に自分から進んで生まれてきた人は1人もいません。死ぬときだってそうです。死にたくないのに死んでいくのです。つまり、人間は自分の意志ではなくしに生まれてきて、自分の意志ではなく死んでいくのです。そう考えると、この世の中に自分の意志のままになるってことなど、ほとんど何もないということがわかります。

それならどうすればいいのでしょうか？方法はあります。考え方をまったく切り替えてみるのです。自分が他からやらされていると思うことも、自ら進んでやっていると思えば、気持ちを切り替えるのです。たとえば、勉強についても、先生や親にやらされていると思うのではなく、自分から進んでやっているのだという気持ちで取り組むのです。そうすれば、勉強をすることも、そんなに難しいことじゃありません。いつまでも、「おもしろくない」「勉強なんて嫌いだから仕方ない」などとすねていては何の進歩もありません。このような「考え方の切り替え」に成功すると、これまでの親や先生方に対する不満も逆転して、そのアドバイスなどがありがたく感じられるようになります。そして、その時こそ、君たちの心に活力がみなぎって、愉快になり、やる気があふれてくるのです。皆さんも考え方を切り替えてみてほしいと思います。

3年生の中では放課後教室に残って、高校受験に向けた自習をしている生徒が増えてきました。そこで3年生を中心とした先生方が自習の手伝いをしている光景が見られます。本来は、別業務をしたり家庭の事をやってもいい時間帯に高校受験に向けた手伝いをやっています。本当に感謝しています。

自分の人生の主人公は、自分自身です。「周囲から～～をやらされている」と考えて生きて行くには人生は長すぎると思います。長い人生を見据えて自分の意思で人生を切り拓いてほしいものです。